

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-30C	14-131	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Lifetime alcohol consumption and upper aero-digestive tract cancer risk in the Melbourne Collaborative Cohort Study. 生涯飲酒量と頭頸部癌のリスクについて ; Melbourne Collaborative Cohort Study		
執筆者		
Jayasekara H, MacInnis RJ, Hodge AM, Hopper JL, Giles GG, Room R, English DR		
掲載誌		
Cancer Causes Control. 2015 Feb;26(2):297-301. doi: 10.1007/s10552-014-0495-y.		
キーワード		PMID
頭頸部癌、コホート研究、飲酒、生涯飲酒量		25403882
要 旨		
目的： 頭頸部がんと生涯飲酒量の関係を調査したコホート研究はほとんどない。Melbourne Collaborative Cohort Study のデータを用いて複数の期間から求めた飲酒量と頭頸部（口腔、咽頭、喉頭、食道）扁平上皮癌の発症との関連を検討した。		
方法： 飲酒頻度と飲酒量に関する思い出し法により 20 歳からの 10 年毎の平均的な飲酒量を計算した。複数の期間における飲酒量の頭頸部癌に対するハザード比と 95%信頼区間を、非飲酒者と比較して、Cox 回帰分析により求めた。		
結果： 平均 16.2 人年の追跡により 98 例の頭頸部癌を同定した。生涯飲酒量と頭頸部癌のリスクとの間に容量依存的な関連を認めた(多変量調整後、40g/日以上群 HR 2.67, 95%CI 1.27-5.60、10g/日増加あたり HR 1.16, 95%CI 1.06-1.28)。ベースライン時の飲酒量とも明らかな関連を認めたが(10g/日増加あたり HR 1.12, 95%CI 1.02-1.24)、生涯飲酒量よりも予測因子としてわずかに弱かった。		
結論： 成人初期に飲酒量を制限することで頭頸部癌のリスクが下がるかもしれない。		